

防災千葉北部

NPO法人日本防災士会 千葉県北部支部会報
事務局 〒273-0011 船橋市湊町2-8-11-411

平成23年10月1日発行(第6号)
090-5500-0845(伴登方)

会員スキルアップ研修

指導者をめざして ロープワーク等研修

スキルアップ研修は、従来外部講師によって実施しましたが、今回はその分野に熟達した会員を講師役として実施することになりました。研修対象のスキルアップ技術は、ロープワークと三角巾包帯法で、8月28日(日)、船橋中央公民館第九集会室で行われました。

講師役は川口定夫氏および中村利孝氏の両会員が務めました。例えば各種あるロープ結束法の用途や各自が今後他の人に教えるときの指導ポイント等も含めて、受講会員からの遠慮のない質問にも答えながら研修が進められました。出席者は14名でした。



ロープワーク研修の状況

今後とも各種研修は、会員自らが(地域の方々を)指導できるレベルまでのスキルアップを目指して進めていきたいと考えています。

東日本大震災ボランティア活動等報告概要(第1回)

東日本大震災はその災害の激甚性、広域性、多様性が多大であることから、関連するボランティア活動の内容も多様で、長期間にわたる活動が必要とされています。当支部会員も10名近い方が、各種のルートで参加されています。

これらの活動から得られた経験から我々が学ぶべきことが多いと考え、9月25日(日)、報告会(第1回)を開きました。この日の報告は3名の方からありました。

川口定夫さんから、岩手県大槌町での実働2日間の土砂除去作業等について、篠原修さんから(ボランティアではありませんが)1ヶ月にわたる東北3県での通信回線復旧作業について、中村利孝さんからは、千葉県旭市、県社協、宮城県名取市でのボランティアセンター運営に

ついて報告がありました。



ボランティア活動報告会

各氏報告の具体的内容は、他の方の報告とともに別途お知らせする予定です。

会員活動報告

3. 11の体験を踏まえ地道に働き汗をかいています

藤下 進(当支部幹事)

私は2007年11月22日に防災士に認定されました。防災士資格取得に為に勉強したレポート作成、講習会の受講、認定試験は私にとって良い勉強となりました。

防災士資格取得以降、町会の自主防災会の副会長として、地域の防減災に向けて日夜頑張っております。しかしその領域は広く、日々知識と実践の積み重ねが必要であると、特に3月11日の東日本大震災(以下、「3. 11」と記す。)以来、痛感しております。

この度の災害は大地震、大津波、原発事故、液状化現象による災害等々、我国に厳しい試練をもたらしております。「3. 11」への今後の対応には限られた分野の知見に留まらず、自然科学は勿論のこと社会科学も動員させ、人間の持つ総合力を結集して当らなければなりません。国を超え、人種を超えての英知の結集が肝要だと思います。

この教訓は小さな一町会の自主防災会にも通ずるものが多々あります。3月11日の14時46分には170世帯余りの我が町会には働き手がおらず、高齢者と子供ばかりでした。あの長い揺れの後余震があり、道路にいる人からの悲鳴は聞こえるが、自主防災会の面々を探すのに苦労しました。しかし定年退職し年金生活をしておられる、いわゆる団塊の世代の方々と思われる男性の声を耳にしました。この人達を自主防災活動に引っ張り出せないだろうか。

その時思いついたのが、消防団の要員不足対策である「機能別消防団員」の考え方を導入してはどうかということです。能力や事情に応じて特定の活動にのみ参加する消防団員のシステムを我が自主防災会に取入れ、普段の活動(活動費

獲得のための資源ごみ回収作業、夜間の防災、防犯巡回等)には参加せずとも、いざ災害発生の際は自主防災会の会員と同等に活動して頂く「防災協力員」を設けたく、そんな制度の構築に汗をかいています。

一方、我が町会に在住する人達の安否確認の方法についても標準化すべく検討しています。「3. 11」のその時、在宅していた人、在宅者で仕事や買い物で外出していた人、それぞれの安否確認の方法も標準化すべく汗をかいています。

「3. 11」の数日後、近所の子供達に「津波」の恐ろしさについて問いかけてみたが、テレビの映像により恐ろしさはわかっているようだが、その恐ろしさに人間が如何に係っていくか、要は防災、減災の認識が伝わっていないのではと、大いに不安を覚えました。



そこで学童向けの防災教育の教材はないかと探しました。ありました。ラフカディオ・ハーン原作の「稲村の火」の紙芝居です。戦中戦後の一時期に小学校の国定教科書にも掲載された防災教育上の一級品の教材です。

津波の恐ろしさに人間は知恵を働かせ、自分と仲間の命を守り、被災後の生活をどのように被災前の生活に戻すか、災害を如何に防ぐか等、まさに「防災原論」と言っても過言ではないと思

います。この「稲村の火」の紙芝居を購入し、我が町会の子供達とそのお母さん達に上演しています。自称「松本幸四郎」で声色に工夫をこらし、精いっぱい汗をかいています。

防災は従来のハード対策、即ち大自然の猛威に対しての真っ向勝負から、ソフト対策(減災)に

シフトされているようです。そんな時、私は地域防災にしかとスタンスを置き、まずは町会の自主防災会の機能性、機動性の向上に、身近な課題をタイムリーにとらえ、課題解決に地道な取組みで大汗をかく所存です。

防災用語
あれこれ

雨台風

一般的に動きが遅く勢力の強い台風が日本列島に上陸すると、大量の降雨を伴い、甚大な被害をもたらします。このような台風は「雨台風」と呼ばれます。

台風は中心に向かって水蒸気が供給されることにより、そのシステムが維持されています。日本列島に台風が近づくと、太平洋から流れこむ湿潤な空気が地上の山岳斜面にぶつかり上昇気流を生じ、激しい降雨をもたらします。台風の動きが遅いとこの状態が長く続き、積算降水量が多くなるため、雨台風となります。

2011年の台風12号(大型で強い台風。8/30日の中心気圧 965hPa、最大風速 35m/s)は9月2日から4日にかけて日本列島付近を通過しました。これに伴い西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となり、降り始めからの総雨量は奈良県上北山村が最多で 2,439 mm、紀伊半島を中心に土砂災害、浸水、河川のはん濫等が多発し、死者 50 人、行方不明者 56 人の計 106 人(7日午後1時現在)と、平成最悪の台風被害となりました。

台風 12 号の進行速度は日本付近で平均約 10km 弱と遅く、更に進行方向がほぼ真北であったため、強風域の風向変化がなく、図 2 のように、紀伊半島や静岡県北西部・山梨県の南向き斜面に矢印のように南よりの風で運ばれた暖湿流が強い降雨をもたらし、この状態が 9 月 2

日から 4 日にかけて連続しました。

台風経路図(9月7日03時現在)



図1 2011年台風12号経路図(気象庁)

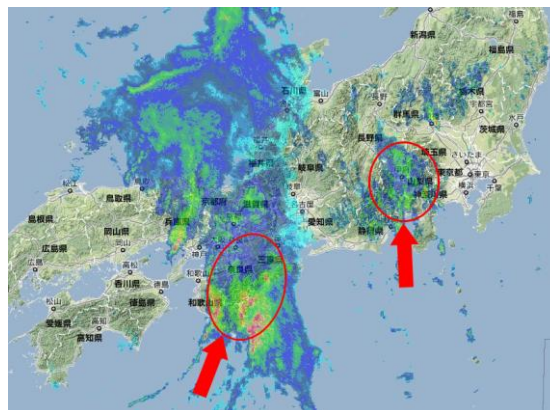


図2 降雨が連続したエリア

(気象レーダー-9月4日01:30)

台風の進みが遅かった原因は図3の高層天気図からわかるように、日本付近北緯25度から40度の中緯度帯に偏西風の蛇行がなく、高気圧が張り出して台風の北上を阻み、更に高気圧縁部の気圧傾度が緩く、地上1.5km~5kmで台風を流す気流が形成されなかったためです。

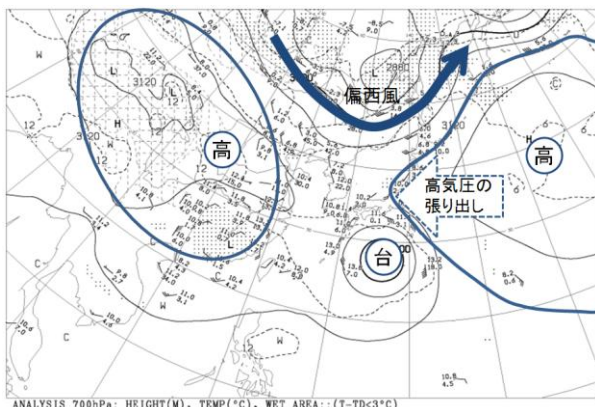


図3 地上約3.5km(700hPa)の天気図(09/01 09JST)

一般的に先行雨量が 300mm を超えると土砂災害が起こりやすいと言われています。台風による災害に警戒する際は、上陸・通過地点や進路にとらわれることなく、中心から離れた場所においても台風に起因し形成される暴風域、強雨域に着目する必要があります。

(記：青山 久子)

H23 年度船橋市中学生防災学習予定

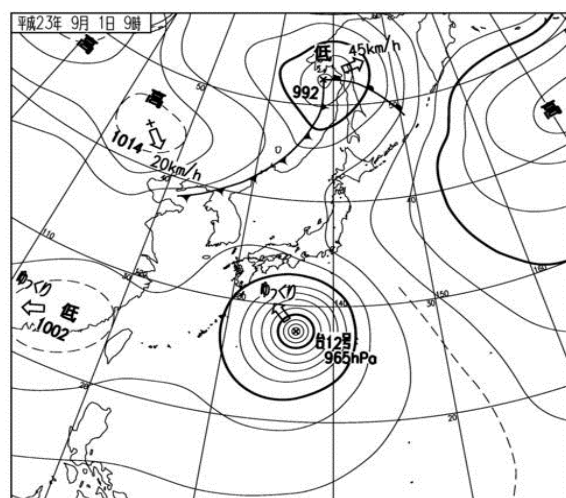


図4 地上天気図 (09/01 09JST)

	A	B	C	D
	導入説明	図上訓練	応急救護	踏査/発表
法田 (2年目)	10/31(月) 5時限	11/2(水) 5,6時限	11/9(水) 5,6時限	11/18(金) 2,3時限
船橋 (新規)	11/4(金) 5時限	11/10(木) 5,6時限	11/17(木) 5,6時限	11/24(木) 5,6時限
三山 (新規)	11/8(火) 6時限	11/15(火) 5,6時限	11/22(火) 5,6時限	11/29(火) 5,6時限

2時限目：9:45～10:35 3時限目：10:45～12:35

5時限目：13:30～14:20 6時限目：14:30～15:20

＊ 特にBおよびDの学習時に防災士会の協力が
必要です。

事務局から

○昨年から協力している「船橋市中学生防災学習」は、今年も3校で実施する予定で、その日程が上表のように決まりました。追って正式に案内しますが、皆様のご協力をよろしくお願いします。

○本部(特定非営利活動法人日本防災士会)の支部規程は、既に5月12日に理事会決定していますが、(規程の内容は本部ホームページの「支部の活動」の項でご覧になれます。)その第2条(総則)第1項で「本会の支部は近将来において都道府県支部に統合し、活動するものとする。」と規定する等当支部にとって問題の多い規程となっています。

については現在本部と質疑応答中ですが、一段落した段階で会員の皆様にその詳細をお知らせする予定です。すぐにも現状を知りたい方は、事務局あてご連絡いただければご説明いたします。

○DIG研修を計画中です。講師には中込榮介氏(元 日本防災士会研修委員長)を予定して、1回目を年内に実施したいと思います。DIGは防災意識の向上や危機管理能力の向上に有効な手法であり、これを学習し地域の方々を指導できる程度まで習熟ことを目的としています。

○近く支部活動に関するアンケート調査を予定しています。ご協力をよろしくお願いします。